

令和6年度『差別をなくし人権を尊ぶあなたと私のつどい』総括

令和6年(2024年)11月10日(日)

ひこね市文化プラザ エコーホールにて

テーマ 「誰もが、私らしく生き生き～あなたの近くの「はて！」

令和6年(2024年)11月10日(日)に、ひこね市文化プラザ エコーホールにて、「差別をなくし人権を尊ぶあなたと私のつどい」を開催しました。

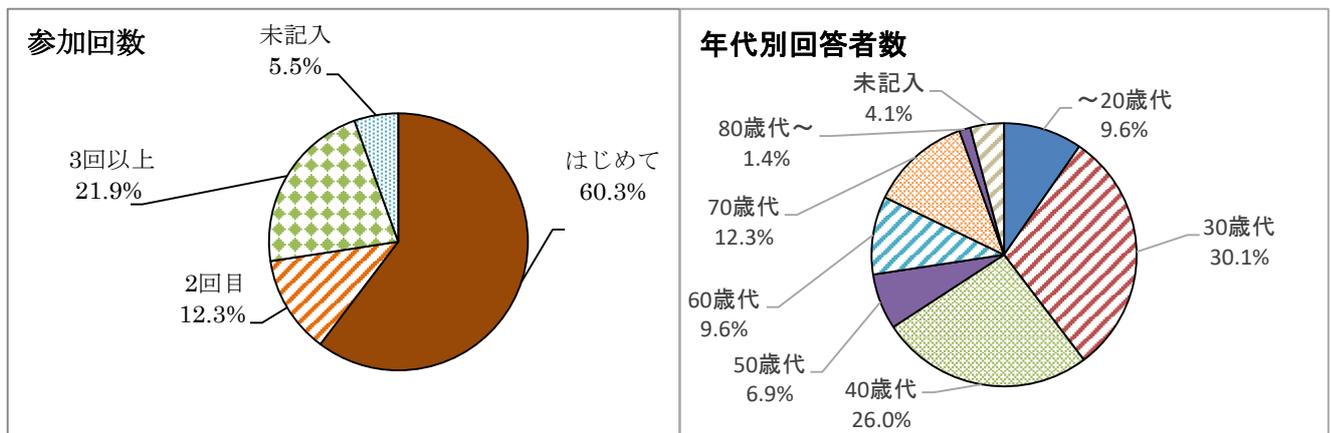
今年度は、女性問題を取り上げ、性別に関わりなく誰もが自分らしく生きるために、男女が社会の対等なパートナーとして参画し、職場、学校、家庭、地域などの社会のあらゆる分野で、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる社会を目指し、学び考える機会としました。

私たちは、自分のおかれている現状を見つめ、人権意識の高揚に努め、家庭、地域、あらゆるところで、視野を広くもち、あらゆる差別を見抜き、自らの研修を深め問題解決のための取り組みをこれからも進めていこうと考えています。人権が尊重される住みよい社会の実現は、みんなの願いです。

当日は、市民をはじめ各種団体や企業などから100名の方が参加され、前半では、実行委員会による研修の報告と話題提供をした後に意見交換会を行いました。また後半にはミュージストリーム代表 勝身 真理子さんに講演いただきました。

なお、アンケートによる参加状況は、次のとおりでした。

(アンケート回収率 73人/100人=73.0%)



開会行事の様子



研修報告と話題提供

今年度実行委員会では、テレビのドラマが話題となり、本作品は昭和初期の話しだが、今も変わっていないことがあるのではないかとの意見がありました。男女が社会の対等なパートナーとしてあらゆる分野にともに参画できるために、どうすればよいかを考えていく中で、彦根市男女共同参画地域推進委員の日々の活動内容等について意見交換会を実行委員と行いました。

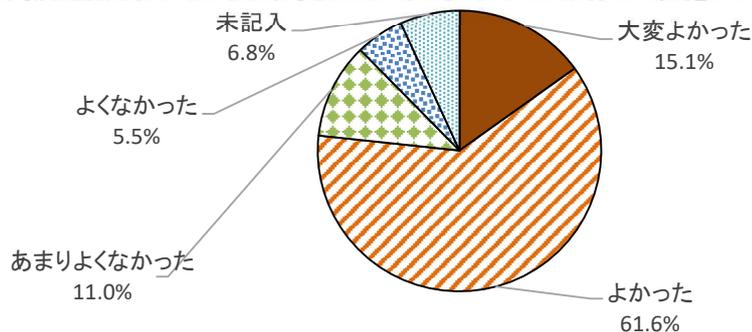
登場人物たちのさまざまな人生の選択やエピソードと、推進員自身の



人生を語る中で、参加者には自分らしく生きるための選択とはなにか、一度立ち止まって考え価値観の違う他者の生き方を認めることが大事であるということを確認しました。性別役割分担意識は希薄になったとはいえ残っている現実があり、性別でふりをかけられず、誰もが自分らしく生き生きと暮らせる世の中になれるためにするために、身近なことに気付き、実践できればと思います。



研修報告、話題提供「彦根市男女共同参画地域推進員」との意見交換会について



【参加者からの感想】 ※抜粋

- 初めてお会いした方と、ジェンダーのお話しや今の時代に合った男女について色々な話しが出来て、有意義な時間でした。研修報告も大変よく、定期的に行って頂いた方が良かったと思いました。
- 研修報告、話題提供を聞いて意見交換をしたことで、様々な考えがあると改めて感じました。世代や年齢、性別などのことにとらわれず一人一人の「らしさ」を大切にしていきたいと思います。
- どのような取り組みをされているか、知ることができてよかった。
- 結婚、出産を経て人との関わり合いが増え、常日頃思う事は”十人十色自分の意見はみんなが「そうだ」と言ってくれるわけではない。相手の気持ちや立場を考えてなければならない”と思っています。
- 一人で参加させてもらって、隣の若い方と話しをさせて頂きました。複数と参加すると仲間とのみ会話してしまいうのですが、全く知らない方との意見交換は良かったです。
- 男女で一緒に過ごすために、みたいな前向き意見交換がよかった。愚痴大会になっていた。「はて？」と思うことについての話題提供にしては、年齢差を感じ、「どうゆうこと？」という意見もあった。
- トークタイムがあり、聞くだけではなくお互いに考える。意見を出しあえてよかった。

講演

演題『「はて？」からはじめる自分らしくのびやかに生きる

—無意識のバイアスからの脱出—

講師 ミューストリーム代表

滋賀県立大学男女共同参画アドバイザー
勝身 真理子 さん



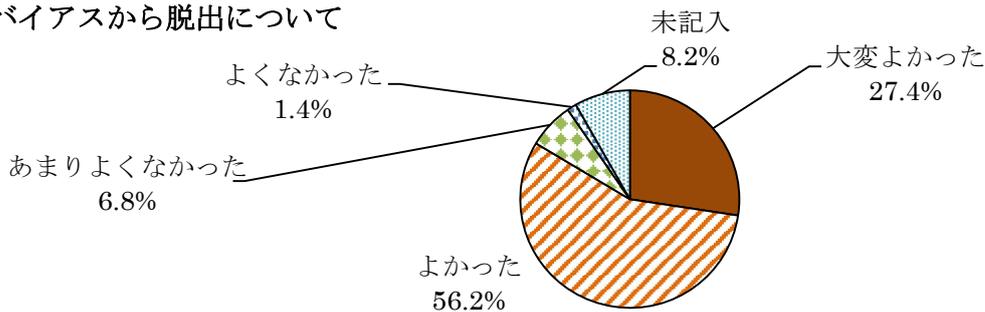
個々の多様性を認め合い多様な選択が可能になるように「無意識の思い込み」に気づき、改めて考えていける機会となりました。

「自分は自分でいい」を大切にして、他人にも、自分にも「男だから」「女だから」を押し付けずに生きていけたらと思います。

自分のモノの見方と、違う見方があることを理解し、多様な生き方が認められる世の中になればとのお話がありました。

幸せに生きる「願いや思い」を実現する社会のしくみづくりのためには、人生や日常生活の中にあるジェンダーギャップ（男女格差）を、見つめ直して、あらゆる選択肢を自分らしく生きていくための力を身につけていければと思います。

講演「はて？」からはじめる自分らしくのびやかに生きる 無意識のバイアスから脱出について



【参加者からの感想】 ※抜粋

- ジェンダー平等において、女の子らしく、女性らしくが、焦点にあがりがちですが、男性においても、男性への期待などがあることを聞いて納得しました。性別で区別することではなく、本人らしくが大事だと気づかされました。
- 「絶対に〇〇はいけない」は危険。孤立はいけないが孤独は志を持って経験すべき通過点とも言える真摯な活動報告に敬服致します。
- 楽しく聞かせてもらいました。「知らず知らずのジェンダー規範にしばられている」ことに気づきました。年齢のためか知識不足のためか、カタカナの新しい言葉にちょっとついていけない私がありました。
- 自分のまわりにたくさんの男女差別があることを改めて考える機会となった。子どもは、知らず知らずのうちに影響をうけているので、「男だから」「女だから」などの言葉を安易につかわないよう気をつけていきたい。
- 自分の潜在意識を改めて考えてみたいと思う。無意識で差別や相手の気持ちを傷つけるように配慮していきたい。
- 男性だから、女性だからという事ではなく、社会的立場等関係なくそれぞれが納得できる世の中であってほしいと思いました。多様性のある社会を望みます。
- それぞれ固定観念があるように思う。男女ではなく1人の人として見ていく必要があると思う。決めつけて押しつけないようにしたい。まずは自分を大切に。
- 自分が望む生き方を周りの人と対話しながら、主張ばかりするのではなく、時に相手の意見も取り入れたり、すり合わせながら優しい人になって過ごしていきたい。
- 人権研修を繰り返し受講していても、無意識に女性っぽい、男性っぽいと、私自身の意識の中にあるのだと学びました。この気づきをいかして、はて？をみつけ解決に導けるよう取り組んでいきたい。